

ヘイケボタル

ゲンジボタルの次に有名なホタルです。成虫は全体的に黒色で、胸部が淡赤色で中央に太い黒色の線があります。オスよりもメスの方が、体が大きいです。

生息場所は、田んぼやその周辺の水路、湿地などです。幼虫はタニシやモノアラガイの仲間を食べます。

富士市では6月中旬から7月上旬ころに成虫を見られます。日没後ゆっくりと、オスは約0.5秒に1回の間隔で「ボ・ボ・ボ・」と飛翔明滅（ひしょうめいめつ）します。メスは、葉にとまりゆっくりと強く明滅を繰り返します。

交尾後メスは、水際にあるコケなどに約100個ほどの卵を産みます。

約20～30日すると卵からかえり、2mmほどの幼虫が出てきます。その幼虫は、翌年の4月頃までに1.5cmくらいまで成長します。5月頃になると幼虫は上陸し、田んぼの畦（あぜ）の中で蛹になり、その後成虫となります。



富士市での現状

かつては富士市の水田には全域に分布していましたが、昭和30年代以降の開発や圃場整備（ほじょうせいび）、水田で使用する農薬などにより激減しています。ゲンジボタルは各地で保護活動により維持されていますが、ヘイケボタルは小さく光りも強くないため、あまり保護活動がされていません。ゲンジボタルと同様にヘイケボタルの保護活動も行っていく必要があります。

富士市では、岩本山周辺や北松野にある水田の水路等のとても狭い範囲に少数が残っているだけです。

ヘイケボタルを確認したメッシュ

